

平成29年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立大垣養老高等学校

学校番号 25

I 自己評価

1 学校教育目標	「質実剛健・自主創造」の校訓のもと、生徒の将来の自己実現と幸せな人生を願い、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かで、自立と共生をもって地域に生きる有為な人材を育成する。	
2 評価する領域・分野	学校運営	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 肯定的な意見が多く、平均的には昨年と変わりはないが、保護者等が「よくあてはまる」と回答したものは36項目中35項目において昨年より増加している。 肯定的な意見が90%を超えた項目 【生徒】「基本的なマナーを身に付けさせる」「安全・衛生面に配慮している」「コミュニケーション能力を身に付ける」「明確な目標をもたせ指導している」 【保護者等】「魅力ある学校づくりの意気込みが感じられる」「高校生としてふさわしい服装、頭髪の指導」 肯定的な意見が70%を下回った項目 【生徒】「情報を速やかに伝えている」「清掃が行き届いている」 【保護者等】「連絡文書は保護者に確実に届く」「一人一人の能力に応じた学習指導を行っている」「いじめや差別を許さず厳しく対応している」 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> (1) キャリア教育を推進し、生徒の自立のために必要な取組を積極的に実践し、魅力ある学校づくりに努める。 (2) 授業改善に努め、生徒自らが学び考える授業を実践し、主体的に学習に取り組む生徒を育てる。 (3) 他者を尊重し、生命を大切にする教育を実践し、規範意識や品位を備えた心豊かな生徒を育てる。 (4) 地域連携に加え国際理解教育を推進することにより、コミュニケーション能力とグローバルな視野を身に付けた生徒を育てる。 (5) 部活動、生徒会活動、農業クラブ活動、家庭クラブ活動など生徒が主体となる活動を重視し、活力ある学校づくりに努める。 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> (1) 各教科・学科単位の会議、分掌の組織 (2) 企画・職員会議と各種委員会 他 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 教科、学科、分掌での立案と実践 (2) 地域の方、支援していただける方の意見等	(1) 評議員、PTA、学校関係者の意見 (2) 日常の実践活動及び進路実現	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
(1) キャリア教育の推進 インターンシップ、基礎トレ講座、意見発表会、職業研究ガイダンス、ビジネスマナー講座、学習成果発表会	(1) 進路状況、競技会、コンクール、発表会、資格取得の結果	A (B) C D
(2) 主体的に取り組む生徒の育成 地域や企業・大学等と連携した研究活動 出前授業や高校見学会を生徒が担当	(2) PTA、学校評議員、地域住民の意見 (3) 職員、生徒の意見	(A) B C D
(3) 心豊かな生徒の育成 朝読書、弁論大会、人権教育(人権教育協議会研究協力校)、遠足児童との交流、ボランティア活動		A (B) C D
(4) 国際理解教育の推進 海外体験研修、ユネスコスクール加盟(グローバルイシューワークショップ)、農業高校生海外実習派遣事業		A (B) C D
(5) 活力ある学校づくり 部活動、生徒会活動、MSリーダーズ活動、農業クラブ活動、家庭クラブ活動、商業クラブ活動、Sクラブ活動		A (B) C D
11 成果・課題	<p>○養老改元1300年祭関連行事や全日本愛瓢会等において、地域に学び地域に生きる人材育成に資する各種研究・活動の発表機会をいただくことができた。</p> <p>○地域や大学・企業等と連携した研究活動も充実し、全国各地の大学・企業での発表、環境省カンファレンスへの参加、国土交通省プロジェクトへのエントリー、文部科学省訪問等の機会を得ることができた。</p> <p>▲国公立大学進学者を継続的に輩出するシステムづくり。</p>	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> 総合学科と農業科併置のメリットを生かした学校行事等の取組を更に工夫する。 今年度に引き続き、地域と連携した活動を推進する。 高い進路目標をもたせ、何事にも意欲的に取り組む生徒を育成する。 	

I 自己評価

1 学校教育目標	「質実剛健・自主創造」の校訓のもと、生徒の将来の自己実現と幸せな人生を願い、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かで、自立と共生をもって地域に生きる有為な人材を育成する。	
2 評価する領域・分野	教務部	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	多面的な学習評価、一人一人の能力に応じた指導、教科による習熟度別や少人数授業が学習理解度向上につながる、という項目についての肯定的評価が75%以上である。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1)基礎学力の定着と主体的な自己学習力の育成 (2)考える場面、話し合う場面を取り入れた授業の推進と積極的な授業改善 (3)言語活動の充実と多様な進路に対応できる学力の伸長 (4)教育活動、学校運営の円滑化	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	教務を中心に各教科・学科、進路、学年が連携し全校体制で取り組む。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
・「わかる授業」づくりと「生徒が主体的に学ぶ授業」の実践など 授業改善に向けた授業の振り返り、教員研修の実施	・学校生活に関するアンケート ・生徒による授業アンケート ・授業参観カード ・指導と評価の年間計画の振り返り	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
(1)基礎学力の定着と主体的な自己学習力の育成 ・「本時の目標」の提示と「まとめ」場面での振り返りの徹底 ・シラバスを活用した学習成果の振り返りの実施 ・進路指導部による基礎トレ、朝トレの実施 ・長期休業中の課題作成と課題テストの実施	・生徒によるアンケート調査結果 ・授業参観カードによる教員同士の評価結果 ・指導と評価の年間計画への記載事項 ・職員の意見	Ⓐ B C D
(2)考える場面、話し合う場面を取り入れた授業の推進と積極的な授業改善 ・適切な発問と考える場面の設定 ・ペアワークやグループワークの実施 ・授業参観カードを取り入れた授業評価と情報交換の実施		A Ⓑ C D
(3)言語活動の充実と多様な進路に対応できる学力の伸長 ・身に付けた知識・技術を実践的に活用する課題解決学習の実施 ・出前授業や地域連携活動による積極的なコミュニケーションの実施 ・インターンシップの実施		A Ⓑ C D
(4)教育活動、学校運営の円滑化 ・学校行事の検討 ・過去にとらわれない学校運営の改善		Ⓐ B C D
11 成果・課題	(1)教職員の授業改善意識が高まり、積極的な授業参観が行われた。その結果、講義調の授業からの脱皮が進み、授業の様々な場面で生徒の発表、ディスカッションの場面が多くなった。 (2)課題解決学習の充実に伴い、地域連携活動への参加機会が増した。その結果、人前で堂々と話ができる生徒、主体的に学ぶ生徒の姿が多くみられるようになった。 (3)生徒は、与えられた課題に真面目に取り組めるようになったが、家庭での主体的な学習時間が不足している。 (4)働き方改革を踏まえた会議の在り方について改善ができた。	総合評価 A Ⓑ C D
12 来年度に向けての改善方策案		
(1)基礎的な知識・技術の定着に向けた家庭学習時間の増加に向けた工夫 (2)課題解決学習の充実にに向けた総合学科、農業科の連携推進 (3)授業改善に向けた具体的な改善目標の設定と具現化に向けた積極的なチャレンジ (4)生徒のための教育活動、過去にとらわれない働き方改革を踏まえた学校運営改善への提案		

I 自己評価

1 学校教育目標	「質実剛健・自主創造」の校訓のもと、生徒の将来の自己実現と幸せな人生を願い、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かで、自立と共生をもって地域に生きる有為な人材を育成する。	
2 評価する領域・分野	生徒指導部	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	生徒・保護者からの肯定評価が、基本的なモラル・マナーの指導、身だしなみの指導については、90%以上であり、前年より特に保護者からの評価が高まっている。いじめや差別への対応について、生徒は80%以上の肯定評価があるが、保護者からは70%台にとどまっている。保護者へ、いじめに対する学校の取組をさらに理解していただく工夫が必要である。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1) 基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上 (2) 自らの生命と健康および人権の尊重 (3) 安全・安心な学校生活の実現 (4) 教育相談の充実・チームサポートによるスクールカウンセリングの展開 (5) 問題行動の防止と充実した高校生活実現のための援助指導	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	生徒指導部と学年、学科との連携体制 生徒指導委員会、いじめ防止等対策会議、人権教育委員会等	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) MSリーダーズ活動や委員会活動を通じた規範意識の向上(2)「ひびきあいの日」の取組(3)交通安全啓発活動(4)教育相談活動(5)生徒情報の共有	生徒・保護者のアンケート結果 遅刻指導、交通事故、問題行動数による評価	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
(1) 基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上 ・身だしなみ指導の実施と学年会と連携した事後指導の徹底 ・コミュニケーション能力(挨拶・言葉遣い等)、マナーの指導 ・外部講師による情報モラル講話の実施と携帯電話のマナー指導 ・MSリーダーズ活動を通じた規範意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・各行事の実施状況や生徒の様子、感想等 ・MSリーダーズ活動後の生徒の成長 ・身だしなみ違反や問題行動件数 ・生徒や保護者のいじめに関する調査 ・スクールカウンセラーの活用状況 	A ② C D
(2) 自らの生命と健康及び人権の尊重 ・生活アンケートによるいじめの実態把握と早期の指導 ・全校統一LHR「ひびきあいの日」と「あったかい言葉かけ運動」参加 ・教員研修の実施(教務と共催) ・生活委員、MSリーダーズによる人権啓発活動 ・大養祭における薬物乱用防止キャンペーンの実施		① B C D
(3) 安心・安全な学校生活の実現 ・交通安全強化指導の実施 ・自転車点検、交通安全講話の実施 ・MSリーダーズによる交通安全啓発活動		① B C D
(4) 教育相談の充実、チームサポートによるスクールカウンセリング ・宿泊研修や生徒指導ORを通じた1年生の適応指導の充実 ・教育相談週間や教育心理検査等の実施による生徒理解、SCの活用		① B C D
(5) 問題行動の防止と充実した高校生活実現のための援助指導 ・長期休暇前の生活指導の徹底 ・生徒への支援体制の充実(学年会、職員会議等で情報共有と連携)		A ② C D
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・生活委員やMSリーダーズが活発に活動し生徒同士の呼びかけの効果が表れ、生徒の規範意識・人権意識の向上が見られた。 ・教務と共催で教員研修を実施し、人権に関する理解を深めるだけでなく、学校や生徒の目指す姿について再確認し共通理解を図ることができた。 ・学校生活の適応等について支援を必要とする事案が発生している。支援体制を強化し早期対応できるようにしたい。 	総合評価 A ② C D
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・「いじめ」「生徒の心の健康」等の理解を深め、他分掌、学年、学科等と連携して生徒に対応、指導できるよう研修・情報共有の時間を確保する。 ・情報モラルについて、教師からの指導だけではなく、生徒が主体となる活動(例えば24時間スマホ禁止デーのような「生活とスマホ」を考える活動)を展開させたい。 	

I 自己評価

1 学校教育目標	「質実剛健・自主創造」の校訓のもと、生徒の将来の自己実現と幸せな人生を願い、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かで、自立と共生をもって地域に生きる有為な人材を育成する。		
2 評価する領域・分野	進路指導部		
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	1) 適切な進路情報の提供、2) 将来の進路希望に沿った支援・助言、の2項目ともに、約9割の生徒・保護者から肯定評価を得ており、前年度と同様、高い支持率を得ている。		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1) 基礎学力およびコミュニケーション能力の向上 (2) 高い進学目標をもつ生徒への継続的・効果的指導 (3) 外部教育力や内部人材の活用、地域との連携 ポートフォリオを活用した自立意識の涵養		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	学年団を中心としたキャリア教育実践を進路指導部がサポートする体制 学年・教科・分掌の横断的連携体制 地域企業、外部人材との緊密な連携や地域社会との協同体制		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 基礎トレ講座、キャリアガイダンスの充実 (2) 進学補習・資格取得、ドリカム講座 (3) 外部教育力の活用、内部人材の活用 ポートフォリオ、事後アンケートの活用	1) 就職内定率、進学合格率 2) 難関志望者動向 3) 事後アンケート、感想・作文評価 進路アンケート		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
(1) 基礎トレ講座：基礎学力・一般常識の習得に主体的な取組体制を作った。3年前期は全クラスが統一して朝読書に代えてSPI対策や基礎学力の増強を目的に朝トレを実施し奏功した。 キャリアガイダンス：年間を通じて様々な進路ガイダンスや体験学習、講演会を実施。職業観や勤労観、人権意識を高め、進路意識や公共心、他者を尊重し感謝する姿勢を育むことができた。	(1) 基礎トレや朝トレに取り組む姿勢・定着度 各種ガイダンス前後の生徒の変化・成長	Ⓐ B C D	
(2) ドリカム講座：難関志望校希望者が切磋琢磨する環境を形成した。小論文指導を通して、自己表現力を高め、課題解決に向けた取組を促した。優秀なOBやOGに協力を依頼し、3年生に国立大や公立短大を始めとする難関校にチャレンジできる体制を築いた。 補習：新規教材の導入、実力テストの評価体制の改善により長期的視野に立った計画的・継続的な学習体制を作った。	(2) ドリカム講座への参加意欲・態度、成果 進学補習への参加人数・意欲、進学・就職に対応できる基礎学力の増強	Ⓐ B C D	
(3) 外部教育力の活用：ハローワークや地域社会と連携し、講演会や大垣市合同企業展、事業所見学、インターンシップ、模擬体験講座を実施。PTAや卒業生と連携し、面接指導や語る会を実施。外部講師を招き、全校進路講演会を企画し、人生観や人権意識を涵養し、進路意識の向上を図った。 内部人材の活用：本校職員が約90ヶ所の事業所を訪問し、本校教育活動への理解を促し、求人開拓に繋げた。	(3) 生きる力、職業観・勤労観、進路意識の向上 外部人材、地域社会との協力体制・信頼関係の強化 本校指定求人への質的・量的向上	Ⓐ B C D	
11 成果・課題	自己肯定感・有用感、大養ブランドとしての自尊心が高まり、基礎学力・自己表現力の強化育成が実り、就職希望者は早々に内定を果たした。進学希望者はドリカム講座の受講者の中から国立大、公立短大等の難関校挑戦者が大幅に増加した。進学・就職活動を通して自己表現力や基礎学力を高め、自立心を育み、進学・就職とも大多数の生徒が第一志望への合格を果たした。 来年度の課題として、将来への展望をもった向上心を喚起し、家庭学習習慣を確立し、1年次から高い進路目標を掲げて着実な努力を継続できる人材育成を図りたい。2年次はより高い進路志望を実現する具体的な道筋を主体的に考えて行動させたい。		総合評価 Ⓐ B C D
12 来年度に向けての改善方策案 ・「大学入学共通テスト」や「学びの基礎診断」を視野に、SPI等に対応できる「確かな基礎学力」の養成と並行して難関校を目指す学力や小論文などの表現力を育成するドリカム講座の改革と新規教材の導入と有効活用。 ・3年間の段階的な成長に合わせた繋がりある各種キャリア教育行事の計画的運用による生きる力の伸長。各行事を繋ぐ軌跡として自己の成長を確認し、進むべき進路選択を主体的に判断できる集積型個人内評価（ポートフォリオ）の継続活用。			

I 自己評価

1 学校教育目標	「質実剛健・自主創造」の校訓のもと、生徒の将来の自己実現と幸せな人生を願い、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かで、自立と共生をもって地域に生きる有為な人材を育成する。	
2 評価する領域・分野	総合学科部	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	該当なし	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1) 地域及び周囲から信頼され、地域社会に貢献できる有為な人材の育成に努める。 (2) 主体的に学習し確かな学力を身に付け、自己実現に向けて努力する資質を育成する。 (3) 科目選択についてのガイダンス・カウンセリングの充実を図る。 (4) 地域連携やボランティア等を通して、豊かな人間性を育む。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	(1) 企画委員会、職員会議、総合学科部会での検討 (2) 他分掌、学年会との連携	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 大養祭、公開講座 (2) 弁論大会、学習成果発表会 (3) 科目選択説明会、科目選択カウンセリング	事後アンケート、大会審査結果、各種メディア等の報道	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
(1) 大養祭では、系列ごとに様々な出店をし、販売実習を行った。公開講座では、地域の中学生に対し、学習の成果を伝えることができた。	事後アンケート 職員、生徒の意見 大会審査結果	A ② C D
(2) 春休みの間に自分自身が身近に感じる問題点などを、一人一人が考え、クラスでの弁論大会を行い、クラスの代表者が校内弁論大会で発表した。学習成果発表会では、各系列で2年間学習した内容を発表した。		A ② C D
(3) 1年次は保護者と生徒に対して、PTA総会の前に科目選択説明会を実施した。また、「産業社会と人間」の授業見学を行った。2年次は「総合的な学習の時間」に、科目選択の説明を行った。		A ② C D
(4) 高齢者施設や障がい者施設を訪問した。また、交通安全のストラップを作り地域の人に配布した。学校内外のゴミ拾いを行った。		A ② C D
11 成果・課題	(1) 大養祭では販売実習や地域の人との触れ合いができた。公開講座では、本校の教育の魅力が伝えることができた。 (2) 校内弁論大会は、発表者9名が素晴らしい発表をした。聴衆は熱心に聴くことができた。学習成果発表会は、系列以外の生徒に学習成果を伝えることができた。 (3) 1年次の科目選択説明会には、保護者の出席率は62%であり、毎年出席者が増加している。1年次で系列の変更をする生徒が2名いた。進路希望と科目の選択をもっと関連付けて考えさせる指導が必要である。2年次で1科目を変更する生徒が2名いた。1年次の2名以外は進路にあった科目の選択をすることができてよかった。 (4) 高齢者施設や障がい者施設の訪問を通して、人との触れ合いや思いやりを大切にする心を育むことができた。交通安全キャンペーンで啓発活動を行うことができた。ゴミ拾いは地域清掃に役立った。	総合評価 A ② C D
12 来年度に向けての改善方策案 (1) 大養祭では、より学習の成果と結び付ける取組にしたい。 (2) 農業科との併置のメリットを生かし、弁論大会を農業科の生徒にも聴いてもらいたい。 (3) 1年次の科目選択説明会の参加保護者を更に増やしたい。ガイダンス機能を充実し、科目選択の変更を少なくしたい。 (4) 地域の人々との関わりを増やす事業を計画したい。		

I 自己評価

1 学校教育目標	「質実剛健・自主創造」の校訓のもと、生徒の将来の自己実現と幸せな人生を願い、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かで、自立と共生をもって地域に生きる有為な人材を育成する。		
2 評価する領域・分野	農業部		
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	大養祭や各種イベント等での地域の本校生徒に対する期待の声は大きい。		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1) 持続可能な循環型社会に向けて環境・農業教育を推進し、世界規模で考え、足元から行動する学校として地域の拠点となるグローバル・アグリハイスクールをめざす。 (2) 人権感覚を養い、心の教育、命の教育、食農教育を推進する。 (3) 経営能力や奉仕精神の育成に重点を置き、基本的な農業技術能力と応用力をもった地域社会人を育成する。 (4) 地域貢献、地域連携、地域共生を推進する。 (5) 幼保小中高等に対し、農業教育活動の普及、支援を推進する。 (6) 生徒一人一人を一層輝かせ、希望の叶う進路指導をすすめる。		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	(1) 職員会議、農業部会、科長会、各学科会議 (2) 地域企業との連携や地域社会との協働体制		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1)環境教育の推進 (2)心の教育・いのちの教育・食農教育の推進 (3)農業技術教育の推進 (4)地域に根ざした教育の推進 (5)農業教育の普及活動の推進 (6)進路指導の充実	事後アンケート、各種メディア等の報道		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
(1) 耕畜連携を推進し、乾草残渣・牛糞などの堆肥化と耕種での有効活用を進めた。水田での鉄コーティング種子の栽培実践は、ホームページ等で情報発信した。河川敷を活用した自給粗飼料生産等持続可能な循環型農業生産を一步進めた。	事後アンケート 各種イベント等における地域の声 職員、生徒の意見 各種メディア等の報道	A ② C D	
(2) 栽培管理、生育調査、加工品作り等学科毎に野菜・水稻を中心にした実践的な授業展開を行った。また、「生命を育み、絆と未来をひろげる」のスローガンを掲げ、小学校、幼稚園児童の交流受け入れや、動物供養祭など多様な心を育てる学習を推進した。		A ② C D	
(3) GAP導入に関わる講演会を実施し、職員、生徒に意識の定着を図った。大養祭では各科パネル発表を実践した。各種イベント販売においても各学科で生徒による流通販売実践に取り組んだ。		A ② C D	
(4) 新商品開発に関わる課題研究を通じた地域連携を推進した。特に養老改元1300年イベントでは、「瓢箪倶楽部秀吉」が中心となり、農業クラブや商業クラブ、家庭クラブ等が協力し瓢箪イルミネーションを完成させた。		① B C D	
(5) 新聞、JA広報誌、養老町ケーブルテレビ等を通じて生徒の実習活動の様子を地域に公開した。地域への農業学習内容の普及PRの場「大養祭」も大盛況であった。		A ② C D	
(6) 西濃農林事務所と連携し、管内農業現地巡回学習会や西濃地域農業教育懇談会を実施した。また、県就農支援センターと連携し職員対象に講演会や生徒対象に個別相談会を実施し、新規就農や担い手育成に向けての意識を高めることができた。進路指導部と連携し小論文指導を進めることで、今年度岐阜大学への進学者を2名輩出できた。		① B C D	
11 成果・課題	(1)有機減農薬栽培への転換 → 堆肥化施設の整備計画等の推進 (2)幼・小児童等の受入継続 → 学習効果と計画的な受入 (3)生産物の付加価値定着を図る → PR戦略と流通実践 (4)新商品開発活動等の定着 → 連携内容を一層PR、関係機関との連携推進 (5)ファーマーズマーケット等への出荷 → 流通業者のとの連携強化 (6)後継者育成 → 後継者育成の実践場づくり、進学へのキャリアガイダンス	総合評価 A ② C D	
12 来年度に向けての改善方策案	(1) 各科学習指導重点項目(3本柱)の改善・整備 (2) 「アグリくん」及び農場生産物を活用した生徒の地域活性化と流通実践への取組 (3) ホームページの更新と地域メディアとの連携 (4) 後継者育成活動の充実と地域技術交流体制作り (5) 専門性を生かした進路先確保と進学意欲を積み上げる指導、国公立大学への進学者輩出を目指す		

I 自己評価

評価する領域・分野（分掌）	寮務部	※農経研＝農業経営者育成研修
1 学校教育目標	「質実剛健・自主創造」の校訓のもと、生徒の将来の自己実現と幸せな人生を願い、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かで、自立と共生をもって地域に生きる有為な人材を育成する。	
2 今年度の分掌の重点目標	(1) 寄宿舎教育の推進に努め、集団で活動することによる人間関係、倫理観や規範意識、所属意識の高揚を図る。 (2) 規律ある生活と学習を柱とし、日課や行事を通して調和のとれた生徒を育てる。 (3) 農業科の後継者・経営者育成への取組の充実を図る。また、学年、進路、HR、学科との連携を強化し、高校生活の目標と取組を高め、自己理解を深めさせる。	
3 今年度の具体的な取組とその評価		評価(ABCD)
(1) 寄宿舎教育の推進 ・あらゆる機会を通して「寄宿舎」を有効に活用した研修及び学習活動を推進し、寮生の基本的生活習慣に対する意識向上と「生きる力」の醸成に取り組ませた。 【寮生】 遠隔地生徒の他、課題研究等の専門学習や部活動に専念する生徒を受け入れ、指導した。また、寮生組織を充実させ、規範意識、帰属意識の向上に努めた。 【研修生】 プロジェクト専攻生、学科、部活動、農業クラブ等による研修会や資格取得、学校行事等に対応した生徒を研修寮生として受け入れ指導した。 (2) 規律ある寄宿舎生活による生徒の育成 ・「自律・自立」、「清く・正しく・美しく」、「賢く」の3つの標語のもと、寄宿舎生活を通して寮生が将来の夢を実現するための、「たくましく生きる力」を身に付けさせた。 【寮生】 「自治組織の充実と活用」のため、役員および週番などの任務を寮生がしっかりと果たし、自主性や実践力が身に付く寮運営を行わせた。週番任務や取組内容の充実に努め、規律ある生活の確立に努めさせた。(伝統の日の定着、いぶき寮GSCの継続実施等) 【研修生】 より研修効果を高められるよう、舎監長が「寄宿舎利用のモラル」を説明して周知徹底することで、集団生活を通して、規律ある生活の体得に努めさせた。 (3) 農業科の後継者・経営者育成への取組の充実 ・農業経営者育成研修に加え、課題研究等の専門学科研修を実施した。	A B B A A	
4 今年度の成果と課題		総合評価
(1) 寄宿舎教育の推進 年間を通じて約20名の寮生を受け入れ、寄宿舎での生活を通して人間教育を行った。寄宿舎目標の下に、3つの標語を設け、基本的な生活習慣の習得、向上と人間関係作りや規範意識の向上のための指導を継続した。また、研修寮生の寄宿舎教育も推進してきたが、研修を活用している生徒・指導者に偏りがあり、学校全体で寄宿舎を活用した教育に取り組むことができるよう、積極的に活用を呼びかけていく必要がある。 (2) 規律ある寄宿舎生活による生徒の育成 ここ数年に渡り取組を継続している「寮生自治組織化」を定着させ、寮生による自主的な寄宿舎運営を行わせた。今年度も昨年度に引き続き、短期目標として「いぶき寮GSC」を制定し、あいさつ、履き物の整理・整頓、清掃の3点を重点項目として生活改善に取り組ませた。自主的な寄宿舎生活を通して寮生の意識向上が認められたが、全ての面において意識が高くなったとは言えない面もあり、さらに継続指導によって意識を高めていく必要がある。寮生保護者との意思疎通も不足していると考えられる。 また、研修寮生における規律の徹底などが不十分であり、指導体制の充実とともに、施設・設備等の改修もすすめ、ソフト・ハード両面からの改善が必要である。 (3) 農業科の後継者・経営者育成への取組の充実 農業経営者育成研修では年間5回の研修を定着させ、学科と連携して後継者・経営者育成に取り組むことができた。また2、3年時での課題研究等による研修も定着することができたが、さらに推進していく必要がある。	B	
5 来年度に向けて（計画と具体的な取組・改善案）		
(1) 農業経営者育成高等学校としての寄宿舎教育の充実と研修による寄宿舎活用の推進 農業科(3学科)対象の、1年次「農業経営者育成研修」、2年次以降の「課題研究等学科研修」について、各小学科とさらに連携を密にすることでより生徒に力が身に付く研修内容へ充実を図る。		

II 学校関係者評価

実施年月日：平成30年 1月22日

【意見・要望・評価等】

- ・宮の森公園の剪定など地域との交流活動を今後も継続してほしい。交流をすることによって高校生が地域に溶け込み、地域に生きる人材の育成につながるのではないかと。
- ・MSリーダーズと連携する事業があったが、生徒の皆さんは元気で生き生きとしていた。地域に根ざした活動を伝統とし、すばらしい校風を築きあげてほしい。
- ・国際理解教育のため、海外体験研修を実施していることは大変よい。高校生のうちにグローバルな視野を身に付け、コミュニケーション能力を高めることは、今後の人生にとって大変有意である。ぜひとも本事業を推進してもらいたい。
- ・毎年着実に学校としての力がレベルアップしていることに感激している。これからの大垣養老高校がますます楽しみである。
- ・生徒によるアンケート結果から、校内美化に対する満足度が少々低いと感じる。予算に限りはあるが、学習環境を整え、さらにすばらしい学校としてほしい。
- ・約90%の生徒が、「入学できてよかった」とアンケートで答えている。これは、先生方の指導のたまものであり、感謝申し上げたい。